

いわくらじんじゃ
石座神社遺跡

所在地 新城市大宮
(北緯34度55分38秒 東経137度31分10秒)

調査理由 第二東海自動車道横浜名古屋線

調査期間 平成21年8月～平成22年3月

調査面積 4,720㎡

担当者 松田 訓・早野浩二・白井克尚



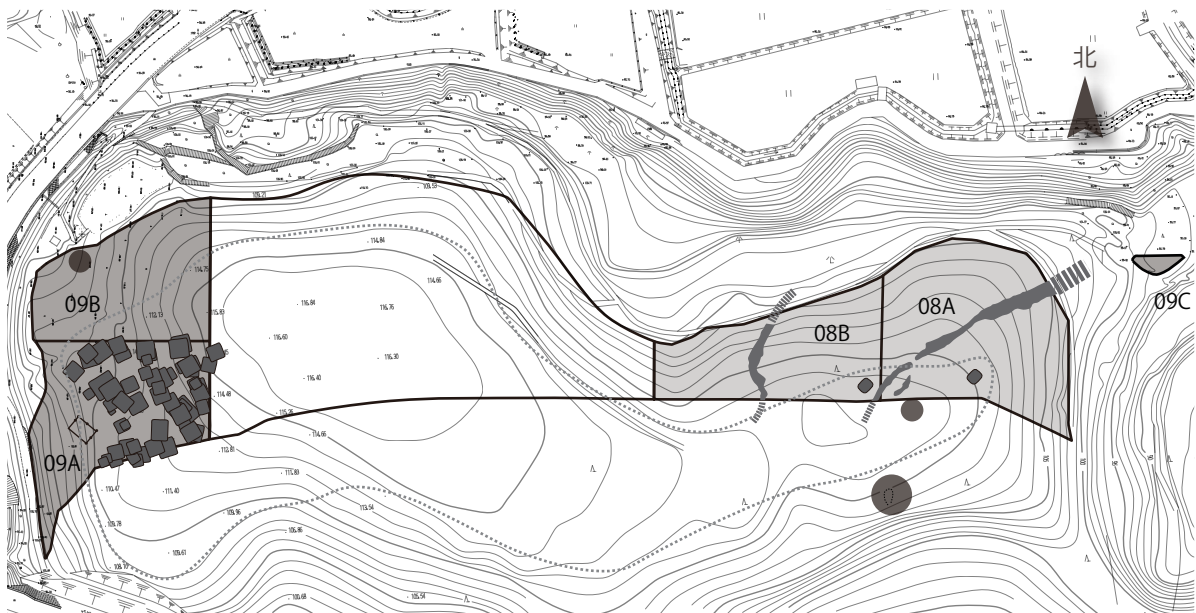
調査地点 (1/2.5万「三河大野」)

調査の経過 本調査は、第二東海自動車道横浜名古屋線にかかる事前調査で、中日本高速道路株式会社豊川支社より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査期間は平成21年8月～平成22年3月、調査面積は4,720㎡である。

立地と環境 石座神社遺跡は、豊川中流域右岸の上位断丘上に立地する。段丘下の東西には連吾川と大宮川が流下し、段丘面上は舌状の平坦地を呈する。遺跡周囲の標高は約110mで、段丘下との比高は約30mである。同じ段丘面上の南端付近には、弥生時代後期から古墳時代に継続する南貝津遺跡、前方後方墳の断上10号墳(全長約50m)が立地する。連吾川に面した段丘下には、平安時代・鎌倉時代を中心とする加原遺跡、大宮川に面した段丘下には、弥生時代後期・古墳時代前期の遺跡である吉竹遺跡が立地する。

調査の概要 今年度の調査は、段丘面西端の北斜面(09AB区)と、一部、段丘面東端の斜面(09C区)を対象とした。調査の結果、縄文時代、弥生時代後期・古墳時代前期、奈良時代、中世・戦国時代、近世以降の遺構と遺物が確認された。

縄文時代 包含層を中心に、縄文土器、尖頭器、石匙、石斧、石鏃等の石器に加えて、縄文時代前期と推定される滑石製玦状耳飾2点が出土した。確実に縄文時代と判断される遺構は検出されていないが、深さ1～2mの筒状・袋状の大型土坑が縄文時代に帰属する可能性がある。いずれの土坑も底面において小土坑が検出される点の特徴である。



調査区配置図(1:2500)

弥生時代後期・古墳時代前期 弥生時代後期・古墳時代前期は、本遺跡において最も遺構・遺物が濃密な時期で、09A区の丘陵緩斜面においては、約70棟もの多数の竪穴住居が重複した状態で確認された。竪穴住居の多くは、地床炉、貼床、周溝を伴っており、平面形は長辺4～5mの方形を呈する。また、特徴的な住居として、長辺6～7mのやや大型の住居(1181SI・1253SI・1277SI・1464SI等)、長辺約3mの小型の住居(1270SI・1402SI等)、地床炉に支柱石を埋設した住居(1180SI・1181SI・1200SI・1330SI・1349SI等)、いわゆる馬蹄形遺構を伴う住居(1349SI等)、竪穴住居の一隅の床面上に粘土塊(20cm程度)が残されている住居(1180SI・1331SI等多数)、焼土・炭化材と大量の土器が廃棄された焼失住居(1331SI・1454SI等)も確認できた。さらに、西向き斜面縁辺にはやや大型の掘立柱建物も確認された。

出土遺物は、竪穴住居や黒褐色を呈する包含層中から多く検出された。土器は、台付甕、高杯、(加飾)広口壺、瓢形壺、小型壺の各器種が出土し、1218SI上層からは底部穿孔壺、1181SIからは紐孔付蓋も出土した。1454SIは、住居北東隅を中心に土器が密集して検出され、土器群には1個体分の叩き甕も含まれていた。その他、土製紡錘車、土玉等の土製品、小型の板状鉄斧、鉄剣等の鉄製品も出土している。

奈良時代 09C区は、古代の遺構と遺物が確認された段丘面東端緩斜面(08A区)の下位に設定した調査区で、調査区の遺構検出面付近からは、須恵器がわずかに出土した。なお、09C区では、溝状の遺構も確認されたが、遺構の帰属時期は不明である。

戦国時代 09A区の遺構検出面付近において、銭貨(永楽通寶)1点、09B区の遺構検出面付近において、鉛製鉄砲玉1点が出土したが、同時期の遺構は確認されていない。

近世以降 09A区の丘陵緩斜面において、窯体1001SYが確認された。煙道、焼成室、焚口、前庭部灰層等の残存状態は良好である。焼成室は半地下式の構造で、径約1.5mの円筒形を呈する。



遺跡全景(北から)

焼成室からは、近世以降の瓦数点、鉄板、鉄釘、前庭部灰層からは、近世以降の陶器が出土した。1001SYは、窯体構造、灰層の産状から、近世以降に構築・使用された炭焼窯と考えられる。

ま と め 本遺跡は、旧設楽郡域において、弥生時代後期・古墳時代前期の大規模な集落として位置づけられ、丘陵斜面に立地する集落の良好な調査事例として評価される。今後、集落の立地や規模、継続性、遺構・出土遺物の構成等の観点から、吉竹遺跡や、モリ下遺跡等の近隣集落との関係性についてのより詳細な検討が必要と考えられる。

また、縄文時代の遺物は、草創期～前期に帰属するものが多いとみられ、当地域の具体的な様相を知るための良好な資料となるものと思われる。

(早野浩二・白井克尚)



09A区主要遺構配置図(1:500)



焼失竪穴住居跡 (1454SI)



支柱石を埋設した地床炉 (1330SI)



台付甕と粘土塊 (1331SI)



高杯と加飾広口壺 (1200SI)



紐孔付蓋 (1181SI)